

日本大学東北高等学校同窓会会報

# 桜 OUDA 采

 NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU  
日本大学 SINCE 1957

## 第19号



新駐車場(旧1号館跡地)  
11月13日2年ぶりの修学旅行A班出発直前

発行日/2021年12月20日

発行/日本大学東北高等学校同窓会  
郡山市田村町徳定字中河原1

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

編集/日本大学東北高等学校同窓会桜采編集部



**ついに完成!**

写真上段:昇降口を含む全景 写真中・下段:昇降口内部

## 会長あいさつ

### コロナ禍を乗り越えて

日本大学東北高等学校  
同窓会会長

16期生 村山 廣嗣



会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また平素は本会活動に格別のご理解ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

早いもので今年もあと幾日かで正月を迎えようとしております。本来ならば会報誌桜朶19号は8月に発行し、お盆前には皆様のお手元にお届けするよう努力して参りましたが、ご承知の通り新型コロナウイルスの感染症のパンデミックにより、学校での会議はもちろん、役員会も開催できない有様でした。11月に入りようやく県内の感染者数も減少し、国内の感染者も日を追うごとに少なくなってきました。編集部や事務局の先生方のご努力下、正月前までには、お手元にお届けできるものと考えております。

さて、コロナ禍で延期しておりました令和3、4年度の定例総会が11月27日に本会役員、各支部長さんの出席のもと開催され、すべての議案が可決承認されましたことをご報告させていただきます。なお今年度の総会は、コロナ禍により役員総会となりましたことを申し添えます。会の中で、

母校同窓生として初めて教頭に就任されました花里昌昭先生が紹介されました。誠に誇らしく、喜ばしい限りでございます。

ところで、今年3月の卒業式と4月の入学式もコロナ禍のため、リモートによる式典となりました。次回こそは生徒や保護者が一堂に参列する卒業式・入学式になってほしいと願っております。国も世界もコロナに終始し、大きく揺れた一年ではありましたが、母校には希望の光となるニュースがありました。それは本校野球部が18年ぶり8度目の全国高等学校野球選手権大会への出場を果たしたことです。我々同窓生にとって待ちに待った甲子園でした。残念ながら、強豪近江高校に1回戦敗退を喫しましたが、選手たちのはつらつとしたプレーは永く印象に残るものとなりました。甲子園大会出場にあたり、各支部の同窓生のご支援とご協力で改めて感謝と御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

現在、高校生(特に3年生)の置かれている状況は極めて試練の時かと思われまふ。本同窓会では、母校の生徒諸君が未来に希望を見出し、全力を出せるよう支援して参りたいと思っておりますので、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様にとって令和4年が輝かしい新年となりますよう、併せて会員の皆様のご健康とご多幸、さらに益々のご活躍お祈り申し上げ挨拶いたします。

## 学校長あいさつ

### 同窓会の皆様へ

学校長 佐々木 稔



同窓会の皆様におかれましては、ますますご盛栄のことと存じお喜び申し上げます。また平素より母校の発展に心からのご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

令和3年度は、母校の18年ぶり8度目の甲子園出場があり、同窓会の皆様には絶大なるご支援・ご声援をいただきました。改めまして心よりお礼を申し上げます。

その甲子園は天候不順による度重なる順延、8月16日夜に出発した応援バスは現地地で試合中止の決定を受けてとんぼ返り、翌々日行われた試合は降雨ノーゲーム。3日後の再試合ではエースが3球で負傷退場となるなど、難しい条件が重なった大会となりました。しかし、試合は1年生を含む4人の投手でゲームを作り、大飛球を好捕し、盗塁・スクイズを阻止して粘りの野球を見せ、3塁打2本を放って2点をもぎ取るなど、強豪近江高校を相手に堂々たる戦いぶりでした。そのひたむきな姿は永く校史に刻まれ、後輩たちの励みになるものと確信しております。

この大会をもって通算25年にわたり母校野球部を率いてくださった宗像忠典監督が勇退され、本校同窓生でも

ある吉田翔監督にバトンが引き継がれました。必ずや近い将来夏9回目、初の春選抜出場を勝ち取ることでしょう。同窓会の皆様方におかれましても、なお一層のご声援を賜りたく、よろしく願い申し上げます。

さて、校舎環境は昨年の新校舎完成に加えて、令和3年8月には体育館の照明のLED化と空調設備の新設が完了し、最高の教育環境が整いました。母校が名実ともに発展しておりますことをご報告申し上げます。

一方学校では、新型コロナウイルス感染拡大への対応の中での運営が継続されており、密になるような集まりを厳に慎んでいるため、同窓会の皆様への大々的なお披露目等が開催できず、大変申し訳なく思うところです。

あの水害を1年生の時に経験した現3年生は、まもなく母校を巣立ちます。ここ2年間は体育館での卒業式ができませんでしたが、3月には何とか、一同に会する心温まる卒業式を実施できないものか、話し合いを詰めているところです。

顧みれば、陸上・ライフル射撃・相撲・水泳・テニス・馬術競技がインターハイ、全国大会、野球部の甲子園出場と明るいニュースがあった一方で、思うような行事が展開できない一年ではありましたが、そうした中でも本校生徒は精一杯努力躍動しております。学校の環境は、皆様が生徒が在学をされていたときは大きく様変わりいたしました。同窓会の皆様方におかれましては、どうか今後とも母校への変わらぬご支援・ご声援を、心よりお願い申し上げます。

## 日大東北柔道部創設の思い出

昭和29年 工業化学科卒 第1期生 柔友桜会 國分 義郎氏

OB懐古趣味と笑われそうだが、60年前の昭和26年4月、日本大学東北工業高等学校に入学し、卒業までの3年間を遠い記憶の中から断片的ではあるが思い出すまに書いてみたい。

### 1. 柔道部創設の頃

私が入学した昭和26年(1951年)当初柔道部はなく、中学時代に経験した者が若干名いた程度であった。その中に柔道着を黒帯で結んでいた同期生がいた。建築科の鈴木伸幸(西白河郡)である。彼を中心に何とはなしに部も道場もない中、柔らかい草の上や大学の道場で稽古らしきことを始めて2年目の昭和27年に、正式に部として柔道部が認められたのである。

2期生が入学し、その中に2代目主将となる安藤茂(田村郡)他が入部してきた。道場となったのは大講堂と呼ばれた木造床張りの元海軍航空隊整備格納庫。その一隅に畳30畳ほどを敷き詰め稽古に励んだ。畳の上での稽古は草の上での稽古とは比較にならず、その感激は大きかった。主将鈴木伸幸、副主将松崎敏夫、庶務國分義郎、以下1期・2期合せて30数名の日高柔道部の誕生であった。(※写真)

その後、道場はコンクリート床の仮設建物に落ち着き、そ

こに名札などを掛け、私たちは卒業したように記憶している。

### 2. 稽古、技、試合

稽古は師範不在の中で行われた。しかし、主将の下、部員間で切磋琢磨し、創意工夫には余念が無かった。その中から各自自分の得意技を見つけ出していったように思う。対外試合では、昭和28年度の県南高校柔道大会で(安高、郡工、郡商、須高、岩農らが参加)、本校が優勝旗を手中にしたことで、県内に「日高柔道部」の名を高らかに宣言する契機となった。その後は伝統が後輩たちに継承され、柔友桜会が発足し、初代会長に鈴木伸幸君が就任した。



## わたしの人生分岐点は、母校にあり

昭和43年 普通科卒 第15期生 橋本 公三氏  
相模鉄道アカシヤ会

現在、コロナウィルスという未知なる感染症(パンデミック)に振り回され大混乱。世界各国に於けるウィルス感染者も1億5千万人を突破。恐怖のどん底へ突き落とされ、もがき苦しんでいる今日。わたしたちの生活も一変。テレワークによる在宅勤務や不要不急の外出自粛などの緊急事態宣言に伴い、三密(密閉・密集・密接)にならないよう、国から発令されました。戸惑いました。身動きが取れないわたしたちの日常生活は狂いはじめています。特に、東京オリンピック・パラリンピック大会(2020年)開催をはじめ全ての事業・行事が中止や無観客・規模縮小・延期等々で日本国内の経済界も大混乱。外出自粛の最中、有り余る時間を有効に活用することを思いつきました。

母ひとり子ひとりで育ったわたしは、亡き母が残してくれた遺品の整理に着手しました。押入れの奥底から、予想だにしない古びた段ボール箱を発見。古き昭和の香りが漂う宝箱の中身をワクワクしながら開封。遙か遠くの思い出が走馬灯のように蘇る瞬間でもありました。時間は、アツという間に過ぎ去ります。その殆どが、故郷で学び楽しみ楽しんでいた頃の幼少期時代のものばかり。主に、学生時代の卒業アルバムをはじめ、先生方々からいただいた激励の寄せ書きやスナップ写真などがたくさん出てきました。思い出は、時間(とき)を忘れさせてくれる魔法の瞬間

でもあります。資料を紐解くと、わたしの人生は、母校で作り上げられていたものと確信に変わっていったのです。特に、生徒会に立候補すると、全校生徒(約2100名)の前で、自分の考え方や所信表明を演説し、なお且つ各クラスを巡回しながらの支援活動などにより、自然と度胸が身につく、講演会などを開催することができました。

当選後に実施した学校はじまって以来の街頭募金活動(郡山駅周辺やうすい百貨店前ほか)が、超恥ずかしかったこと、また、鉄筆を片手に毎月発行の生徒会だよりの作成配布などが懐かしく思い出されます。そのおかげで、いつの間にか文字などもきれいに書けるようになったような…。

それから、いま思えば、母校の創立15周年記念式典で校旗を挟んで当時の永田菊四郎総長をアテンドしたことが、後に今は亡き内閣総理大臣をアテンドするチャンスが巡って来るなど想像もしていなかったことが現実に。身に余る光栄に身体が硬直していたのを今でも忘れられません。全てを振り返るに母校で培った体験こそが、わたしを大きく左右してくれていたのかも知れませんね。道理上考えられないことが現実に起きていたのです。これも偏に、諸先生方からやさしくご指導いただいたことが、結果的にわたしの人生の糧となったのでした。

その節は、本当にありがとうございました。

橋本公三氏 本校図書館への寄贈作品



# 3.11 福島を救う！

～DD51ディーゼル機関車で福島にガソリンを運んでくれた卒業生！～



中村 圭志氏

平成元年機械科 2 組卒 36 期生  
(日本貨物鉄道株式会社勤務)

皆さんは2011年3月11日のあの日、どこで何をしていましたか。郡山の母校では春の特別補習が実施されており、ちょうど代ゼミの講師の先生方が本館前に待機していたタクシーに乗って出て行くところでした。地震直後、生徒の安全確保のため、急ぎょランドに避難した生徒や教職員を容赦なく余震が襲い、地鳴りと地響きの続く中、東の空が真っ二つに割れ(東側と西側がくっきりと天気に分かれる)、それまで晴れていた空が急激に曇りだし雪が舞っていたのを記憶している人も多いかと思います。原発の放射能問題を抱え誰もが一日一日を生きることが精一杯だったあの期間、人知れず東北に、そして福島にガソリンを届けるために奮闘した方がいます。それがJR貨物に勤務している中村圭志さんです。震災の特番としてNHKや民放(KFB)でもとりあげられ、ご覧になった方も多いことでしょう。11月20日(土)新校舎の応接室に来校いただき、中村さんから当時の様子を直接伺いました。

## …磐越西線の機関士への夢…

中村さんこんにちは。初めまして、今日はよろしくお願ひします。

はい、こちらこそ今日はお世話になります。それにしても、学校は立派に変わってしまいましたね。仕事で学校の前は時々通るのですが、白い壁の旧校舎から茶色に変わっちゃってビックリしました。

昔の面影はほとんど無くなっていますね。

さて、中村さんの高校時代はどんな感じだったんですか。

当時私は猪苗代町に住んでいて、物心ついた頃から磐越西線の機関士になりたいと思っていたのですが、その関係もあって日大東北高校の機械科に入学しました。

猪苗代ですか、最寄り駅はどちらでしたか。

川桁駅です。

会津方面への進学は考えなかったのですか。

できるだけ電車に乗っていたかったので、あえて郡山で乗り換える日大東北を選びました。

通うのに大変でしたね。

いいえ、電車に乗れることが幸せでしたので、大変だとは思いませんでした。

部活動は?

通学の事を考えて部活動は経験していません。ただし、

鉄道(電車)の写真ばかり撮っていました。将来JRの機関士になる夢があったので常に鉄道と電車のことばかり考えていました。

相当電車がお好きなんですね。

そうですね。私が震災直後に貨物列車(タンクローリー車)でガソリンを運んだのも何かの縁ですね。

## …物流(ガソリン)ストップ…

震災直後は物流がストップし、こちら郡山でも深刻なガソリン不足が起きました。電気や水道が止まりました。そこに原発事故が追い打ちを掛けガソリンを手に入れようとする人々の長蛇の列ができました。私も震災の3日目にガソリンを入れようと近所のスタンドに午前2時から5時間並びましたが、午前7時に給油できたのはたったの10リットルでしたから。

本当にあの時はどこもそうでしたよね。

東北のガソリン不足に対応するため国は関東から郡山に石油を運ぶ臨時石油列車を計画しますが、中村さんはいつそのことを知ったのですか。

上層部では早くからその情報を得ていたのでしょうか、私が知ったのは運行直前でした。

大変でしたね。どのようなルートでガソリンが運ばれたのですか。

はい、東北本線であれば簡単なのですが、東北本線は被災して使えませんでしたから、横浜の製油所からまず新潟まで運び、さらに磐越西線を利用して郡山に届けるというおよそ570 km のルートです。物流の要である郡山にガソリンを届ければ、福島県を中心に南東北一体に行き渡らせるというのが政府の計画だったようです。

放映された番組をみると相当緊張感のある内容でしたね。

そうですね、それまで誰もやったことのないミッションでしたから、多くの問題がありました。線路の補修等もそうですが、若松から郡山の磐越西線は翁島を頂点として勾配がきつく、カーブの多い難所が続きます。重い石油を大量輸送するのは極めて困難です。しかも使える機関車は、電気ではなく旧式の大形ディーゼルしかありませんから。電気とディーゼルではどれくらい違うのですか。

もう、それは全然違います。今回のミッションは全国から集められたDD51を2台ずつ配備しましたが、電気なら1台で済みます。

そんなに違うのですか。

はい、パワーは電気が断然強いです。

ところで中村さんはディーゼル機関車運転の経験はなかったそうですね。

はい、定年間近の先輩ベテラン機関士はいたのですが、3人で、1人不足していたのです。なんとか確保できた矢先

にその人も都合がつかなくなって。

どうして中村さんに話が回ってきたのですか。

磐越西線のことは高校から通っていたからよく知っているだろうということで…。

### …DD51との出会いと家族の支え…

その後DD51の運転技術を学ぶために名古屋まで行かれますよね。その時はどんな思いでしたか。

きっちり覚えて自分が磐越西線を走ってやる!という使命感というか責任感ですかね。しっかり学んできっちり仕事をこなすことしか頭になかったです。

その後も郡山では余震が続いていましたか…

そうでしたね。TVのニュースで福島の前震のことを聞くと、やはり心配で妻に電話していましたね。

奥様はなんと?

こっちは心配しなくていいから、自分のやるべき仕事をしっかりやったださいって。万が一(原発の放射能漏れ)の時は会津の実家に家族と避難するからと。

番組の中で私は中村さんが名古屋でのわずか4日間の特別運転講習を受ける場面が特に印象的に残っています。休憩時間や寝る間も惜しんで、何度も何度も復習されましたよね。

はい、高校ではあんなに勉強したことはありませんでした。(笑)

電気と違って、かなり難しいものですか?

はい、設定を間違えるとブレーキが効かなくなるので、そこは念入りに何度も何度も繰り返し頭と体にたたき込みました。電気は設定を間違えば動きません。でもディーゼル機関車はブレーキは効かなくても走るんです。そこが怖いところです。(笑)だから絶対にやれる自信がつくまで徹底的にやりました。

最初のDD51の輸送では雪によるスリップアクシデントがありましたか、中村さんの時はどうでしたか?

そうですね。最初はしばらく使われてなかった線路ということもありスリップしやすかったと思いますが、私の時は4回目だったので、大丈夫でした。先輩も横についてくれましたし。

震災後の3月28日から16回の輸送をされたそうですね。一度に運ぶ10両のタンク車は相当な量と聞いていますが…

はい、タンクローリー車1000台分になります。

郡山のどこが終点ですか。

東部幹線沿いの富久山にあるオイルターミナルです。そこでタンクローリー車に積み替えるまで待ち時間を過ごし、空になったタンク車10台を若松まで運びます。

先頭にあったディーゼル機関車をどのように先頭につけかえるのですか。

来たときは別の車両がタンク車の最後尾に連結されます。機関車は前後に二つの運転台があるので、ターンする必要はないんです。

なるほど。帰りも急勾配は大変ですか?

いいえ、空のタンク車は全然難しくないです。ただし、すべてのDD51は、一台ずつクセがありますので、それに合せてアクセル操作やブレーキ操作をする必要はありますね。そこは車と同じかもしれません。

### …物流の誇り…

コロナ禍で人は家にいても、物は動かさなければなりません。人々の生活を陰で支えている誇りを私は感じながら仕事をしています。また、幼少期に憧れたDD51に出会えたことは私の人生にとって嬉しいことには違いありません。しかし、あの震災のことを考えると、正直複雑な心境でもあります。

震災直後から、17日後の3月28日から4月16日のラストランまで、16回のタンク車輸送に携わった中村圭志さん。空のタンク車を会津若松まで戻すと、大きな安堵感に包まれたと、当時を振り返って語ってくれました。

### …おわりに…

3.11の震災時、夜が来るのが恐くて、朝が来るとホッとする毎日を過ごしたことを思い出しました。東北本線が復旧し、貨物による物流が再開されるまで、私たちの知らないところで、壮絶な闘いがあったことを中村さんの話を伺って、改めて知ることができました。

私たちが寝静まった深夜は勿論、在来線のダイヤを縫うように、仙台―黒磯間を約2時間30分かけて貨物列車が走っています。その先頭機関車を操っているのは、もしかすると中村さんかもしれません。私たちの日常が誰かに支えられていることを、コロナ禍の中で実感できたひとときでした。(聞き手:編集部 高橋敏行)



このお話が絵本になりました

3.11の東日本大震災後、東北本線、東北新幹線、東北自動車道が不通となり、東北への輸送が絶たれました。燃料を運ぶため、全国から集まったディーゼル機関車たち。雨と雪のなか、人びとの待つ郡山を目指します。2年前のあの時、人知れず奮闘した機関車たちの、実話をもとにした絵本。

『まよなかには新潟をしゅっぱつしたディーゼルきかんしゃのデーデーたち。あめがゆきにかわって、どんどんふりつけてきます。ぶじに福島の郡山にたどりつけるでしょうか…。』

~~~~~ 参 考 資 料 ~~~~~

NHK ~証言記録 第39回「福島県郡山市ガソリン不足を救え! 臨時石油列車」2015.3.5放送  
~「The Lifesaving Fuel Train」2021.4.18 放送  
※上記内容の英語版  
KFB 「希望のレール」2021.3.25 放送



令和2年度

# 母校の行事



◆新校舎安全祈願祭

新型コロナウイルスの感染拡大が世界的な規模で広がり、依然として収束の見通しがたえないことから、入学式等の式典および予餞会は、各教室へのライブ配信となりました。



◆新校舎竣工式



◆予餞会



◆ようやくできた運動会、体育大会



◆第71次生徒会役員



◆LIVE配信による卒業式



## 令和2年度 卒業生合格状況

※詳細は学校HPをご覧ください。

日本大学 277名 国公立大学 37名 他私立大学 306名 専門学校 36名 就職 5名

### ◆ 日本大学

|    |    |    |    |      |    |      |    |     |    |       |    |
|----|----|----|----|------|----|------|----|-----|----|-------|----|
| 法  | 27 | 経済 | 23 | 芸術   | 6  | 危機管理 | 4  | 生産工 | 20 | 生物資源科 | 14 |
| 文理 | 23 | 商  | 10 | 国際関係 | 12 | 理工   | 40 | 工   | 91 | 短期大   | 3  |

### ◆ 国公立大学

|       |    |          |   |       |   |        |   |        |   |
|-------|----|----------|---|-------|---|--------|---|--------|---|
| 東北大学  | 2  | 福島県立医科大学 | 4 | 山形大学  | 1 | 新潟大学   | 4 | 都留文科大学 | 3 |
| 北海道大学 | 2  | 宮城教育大学   | 1 | 宇都宮大学 | 2 | 秋田県立大学 | 1 | 会津大短大部 | 1 |
| 福島大学  | 10 | 秋田大学     | 1 | 埼玉大学  | 1 | 富山県立大学 | 1 | 大月短期大学 | 1 |
| 会津大学  | 2  |          |   |       |   |        |   |        |   |

### ◆ 私立大学

|        |   |          |   |        |   |        |   |        |   |
|--------|---|----------|---|--------|---|--------|---|--------|---|
| 早稲田大学  | 1 | 仙台大学     | 3 | 埼玉工業大学 | 1 | 実践女子大学 | 1 | 東京薬科大学 | 3 |
| 東京理科大学 | 7 | 東北医科薬科大学 | 2 | 城西大学   | 2 | 順天堂大学  | 7 | 東邦大学   | 5 |
| 学習院大学  | 1 | 東北学院大学   | 6 | 駿河台大学  | 2 | 国学院大学  | 1 | 日本女子大学 | 1 |
| 明治大学   | 5 | 東北工業大学   | 2 | 東都大学   | 2 | 昭和女子大学 | 1 | 文京学院大学 | 1 |

ほか

## 令和2年度 退職された先生

※敬称略



**石井 政勝**【国語科】  
いしい まさかつ  
勤務期間：昭和54年4月1日～  
令和3年3月1日  
勤続年数：42年



**遠藤 広子**【事務課】  
えんどう ひろこ  
勤務期間：平成2年12月1日～  
令和2年7月6日  
勤続年数：28年7か月



**笹森 るみ子**【保健室】  
ささもり るみこ  
勤務期間：平成3年4月1日～  
令和2年9月21日  
勤続年数：28年6か月



**小林 拓也**【英語科】  
こばやし たくや  
勤務期間：平成28年4月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：5年



**遠藤 夏美**【情報科】  
えんどう なつみ  
勤務期間：平成28年4月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：5年



**川崎 英順**【数学科】  
かわさき えいじゅん  
勤務期間：平成29年4月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：4年



**鹿野 雄大**【数学科】  
しかの ゆうだい  
勤務期間：平成29年4月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：4年



**神野 恭兵**【数学科】  
かみの きょうへい  
勤務期間：平成31年4月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：2年



**石澤 雅法**【英語科】  
いしざわ まさのり  
勤務期間：平成31年4月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：2年



**高田 菜生**【英語科】  
たかだ なお  
勤務期間：平成31年4月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：2年



**大内 健**【数学科】  
おおうち けん  
勤務期間：令和2年4月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：1年



**渡部 隆**【数学科】  
わたなべ たかし  
勤務期間：令和2年4月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：1年



**小林 直喜**【地歴公民科】  
こばやし なおき  
勤務期間：令和2年6月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：10か月



**庄司 一幸**【地歴公民科】  
しょうじ かずゆき  
勤務期間：令和2年6月1日～  
令和3年3月31日  
勤続年数：10か月



**渡邊 真魚**【国語科】  
わたなべ まほ  
勤務期間：令和2年4月1日～  
令和2年7月31日  
勤続年数：4か月  
引続き、工学部准教授として勤務



## 三世代賞

令和2年度は、松島凜さん、古川亜美さん、増戸麟さん、古川空さん、松崎優人さん、白岩愛菜さん、陰山彩音さん、佐浦菜月さんの8名が受賞。

受賞者には三世代の名前の入った記念の楯と記念品として置き時計が贈られました。令和元年度までに56名の受賞があり、今回の8名を合わせると計64名の受賞となっています。

※「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母様への三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。



## 令和2年度 アカシヤ会学業努力賞授与



|             |               |
|-------------|---------------|
| 佐藤 優雅 (1組)  | 松本 優愛 (3組)    |
| 塩田 紘輔 (1組)  | ルモイン アンナ (3組) |
| 渡邊 勇汰郎 (1組) | 安藤 真奈 (7組)    |
| 中山 実咲 (1組)  | 緑川 流雅 (8組)    |
| 木村 右楽 (3組)  | 吾妻 里香 (9組)    |

## 令和2年度 アカシヤ会スポーツ・文化功労賞授与



|            |            |             |
|------------|------------|-------------|
| 田中 露衣 (1組) | 高久 智治 (3組) | 金田安希子 (6組)  |
| 坪井 蒼司 (1組) | 増子 涼香 (3組) | 佐藤 瑞穂 (6組)  |
| 柳沼 康生 (1組) | 上遠野大聖 (4組) | 山田 琉愛 (6組)  |
| 安達 光 (1組)  | 吉田 卓夢 (4組) | 北原 祐輝 (7組)  |
| 菅家 綾美 (1組) | 渡邊 勇斗 (4組) | 有賀 富貴 (7組)  |
| 齋藤 宇蘭 (1組) | 熊田このは (4組) | 小野 幸菜 (7組)  |
| 中山 実咲 (1組) | 國分 夏子 (4組) | 菊地 史祐 (8組)  |
| 官野 直瑠 (2組) | 関根 優衣 (4組) | 佐藤 亜美 (8組)  |
| 小関 冬哉 (2組) | 古川 亜美 (5組) | 齋藤 寧々 (10組) |
| 吉田 歩夢 (2組) |            |             |



# 甲子園応援ありがとうございました。

光南高校との熱戦をサヨナラで制し、18年ぶり8度目の福島王者となった母校の野球部。久々の甲子園に胸を熱くし、最後まで闘い抜いた野球部のメンバーから感動と勇気を得た方も多かったことと思います。皆様の盛大なるご支援、心より感謝申し上げます。



※写真提供:平成16年普通科卒51期生 相楽和紀氏 (福島民報社)



第103回全国高校野球選手権大会第7日は20日、兵庫県西宮市の甲子園球場で行われ、本県代表の日大東北は第1試合の1回戦で近江(滋賀)と対戦し、2—8で敗れた。日大東北は18年ぶり8度目の出場。1990(平成2)年以来、31年ぶりの初戦突破はならなかった。日大東北は中止の昨年を除き3大会連続15度目出場の近江に先行を許した。一回、主戦の吉田達也投手(3年)が負傷し、わずか3球で降板。星拳翔投手(同)に代わり、けん制と内野のミスが重なり先制された。二回には2点本塁打で点差を広げられた。堀米涼太投手(1年)らが粘投したが、追加点を許した。四回まで1安打に抑えられていた日大東北は五回、先頭打者の馬場典選手(3年)が右中間三塁打で出塁した。続く奈須優翔選手(2年)の中越え適時三塁打と、柳沼奏汰選手(3年)の二ゴロの間に走者が生還し、2点を返した。九回に松川侑矢主将(同)が中前打で出塁したが、力尽きた。(記事:福島民報提供)

## 日大東北OBチーム マスターズ甲子園出場決定!

11月21日、本宮市のしらさわグリーンパークで開催されたマスターズ甲子園(高校野球OBの甲子園大会)で双葉OBと対戦した日大東北は、手に汗握る熱戦の末、14対14で同点引き分けとなるも、大会規定により抽選での甲子園出場切符を獲得しました。夏の現役チーム甲子園出場に続き、関係者は大いに沸きました。日大東北OBは2022(令和4年)11月に開催される全国大会(甲子園)に県代表として出場します。おめでとうございます!



試合後のメンバー



## 定例総会開催

コロナ禍で延期になっていた令和3・4年度の定例総会が、11月27日(土)の午後2時より、本館2階大会議室にて開催された。感染予防対策の観点から、参加者は各支部の代表(支部長ら)と執行部役員、会計監査、事務局員に限定しての開催となった。

村山会長より、コロナ禍での総会開催が危ぶまれていたが、学校の配慮により年度内に総会が開催できたことは誠にうれしく、感謝したいとの挨拶があった。また、来賓挨拶では佐々木稔校長より、13年ぶり8回目の甲子園出場をはじめ、陸上・ライフル射撃・相撲・水泳・テニス・馬術競技のインターハイでの活躍に加え、昇降口完成を含めた新校舎についての説明等があった。

議事進行の議長には郡山支部の諸越裕氏が選出され、「令和元・2年度の会務報告並びに決算報告」が承認された。引き続き「令和3・4年度の会務計画案と予算案」が事務局から提出され可決された。残念ながら例年

総会後に開かれていた懇親会は中止となった。会議終了後、卒業生として初の母校教頭職に就任した花里昌昭氏(地歴公民科教員 昭和63年普通科卒第35期生)より「卒業生の方々が誇りに思ってもらえる学校運営に尽力したい。」との挨拶があった。



伊藤 清郷氏の監査報告

## 昭和44年 電気科1組卒 16期生 川上 正氏

卒業と同時に当時の日立製作所栃木工場に入社し、60歳まで勤務しました。その後同じ敷地にある日立物流関東にお世話になった時、偶然に同級生の機械科2組卒業の渡部利春さんが働いており驚きました。

聞けば、渡部さんは当時の日立製作所青梅工場に入社されたとのことで、高校在学当時、汽車通学では同じ車両に乗り合わせていたことがわかりました。(中学校は別であったため、その頃はお互いわからなかったようです。)70歳を過ぎた今、暑気払いや忘年会、そして旅行をともにしながら同窓生としての親睦を深めている今日この頃です。

また、高校野球決勝戦では栃木より二人で応援に駆け

つけています。ここ数年はあと一步の所で負けてしまい大変残念に思います。(渡部さんは野球部OBです。)  
「桜朶」を毎年楽しく拝読させて頂いており、母校が懐かしくペンを執りました。



## 平成3年 電気科2組卒 第38期生 伊藤 和幸氏

私は38期生の伊藤です。斎藤政雄先生のクラスでお世話になりました。私の住んでいる田村市船引町は、東京電力福島第二原子力発電所から約30kmの所に位置しています。私は、高校時代・20代と言葉にできない暗くつらい過去を経験しました。加えて10年前の30代では、忘れもしない東日本大震災で避難生活も余儀なくされました。福島の問題は今も終わっていません。しかし、振り返ればそれらの経験があったからこそ、私は周囲の人々の優しさや温かさを身にしみて実感したし、感謝できる人間になりました。15歳から書の道を学び(高校時代に師事した浜津柳芳先生より城芳の雅号を受け、その後は田村市の橋本芙蓉先生に師事している)、青年会活動や消防団活動にも取り組みました。地元の方々に支えられ、「和」や「公平」の大切さを実感しながら、今私は、40代を精一杯生きています。

中島みゆきさんの曲が好きなので、最後にその中から特に

私の支えとなった「誕生※1」と「ホームにて※2」を紹介します。みなさんもぜひ聞いてみてください。(船引内寿司店勤務)  
※1歌詞:ひとりでも私は生きられるけど、でもだれかとならば人生ははるかに違う…  
※2歌詞:ふるさとへ向かう最終に乗れる人は急ぎなさいとやさしいやさしい声の駅長が街なかに叫ぶ 振り向けば空色の汽車は いまドアが閉まりかけて… (取材:高橋敏行)



## 郡山市特別表彰おめでとうございます



### 阿部 雄一先生

元郡山相撲協会長の阿部 雄一先生は今年87歳を迎えられた。現在も健康に留意されお元気に過ごされている。1962年昭和37年に協会に入会。日大東北高校相撲部監督の他、2007(平成19)年から2016(平成28)年までは協会長を務め、相撲の振興と発展および競技力向上に尽力された。その長年の功績が認められ、「令和3年度郡山市特別表彰(22名)」に選ばれた。現在は協会を退

いてはいるが、「郡山市から大相撲で活躍する力士がどんどん出て欲しい」との熱い思いは変わらない。郷土力士にエールを送る記事が「#福島民報みんなのつぶやき」に掲載された。

健康の秘訣を伺ったところ、「何よりも自分の脚で歩くことかな。」とお返事。現在まで約20年以上続けているスィミングに加え、最近では買い物を含め一日5000～7000歩を目標に歩くのが日課となっているとのこと。めがねの奥の優しいまなざしと笑顔は今も変わらない。

みなさん、健康のために阿部先生を見習って大いに歩きましょう!  
編集部訪問:2021.9.10

## 受章おめでとうございます



### 瑞宝双光章

昭和45年 普通科卒 第17期生

### 近藤 次雄 氏

昭和45年に神田郵便局に入り、平成28年に郡山希望ヶ丘郵便局で退職。県中部地区連絡会郵便担当副統括局長を務め、地場製品の発掘と全国への販売などに尽力した。



### 瑞宝単光章

昭和47年 普通科卒 第19期生

### 東條 仁 氏 (旧姓:高橋 仁)

昭和52年福島刑務所法務事務官(刑務官)、福島刑務所、いわき拘置支所、郡山拘置支所を歴任し、最後は郡山拘置所の法務事務官副看守長で退職。平成28年4月29日付受賞。 ※お詫び:本来は18号で紹介すべきでした。お詫び申し上げ、写真を添えて改めてご紹介いたします。



### 瑞宝単光章

昭和54年 土木科卒 第26期生

### 星 奨 氏

昭和54年に陸上自衛隊入隊し、入隊式や修了式の企画、上級部隊の行事開催の調整に尽力した。



### 藍綬褒章

昭和56年 機械科卒 第28期生

### 常田 広美 氏

平成元年に村消防団に入団し、遭難者の捜索や火災対応に奔走した。平成30年からは村消防団の団長を務め、地域の消防体制の整備に尽力している。

### ～～受章者情報提供のお願い～～

自薦他薦は問いません。新聞掲載の記事と写真を添えて編集部までお寄せ下さい。過去の受賞者も掲載いたします。

## 資料のご提供ありがとうございます

- ★渡邊 弘幸 先生 本校数学科教諭(令和3年8月5日まで教頭職)  
○生徒会発行『渦流』第26号～68号・『広報日大東北』14号～114号
- ★伊藤 輝夫 氏 昭和34年電気科2組卒 第6期生  
○校章およびバックル
- ★篠崎 富秀 氏 昭和40年普通科卒 第12期生  
○第12期卒業アルバム
- ★加瀬谷 忠雄 氏 昭和44年機械科1組卒 第16期生  
○第16期卒業記念品ほか資料

※貴重な資料のご提供、心より感謝申し上げます。同窓会事務局では今後も継続して皆様からの資料等のご提供を受け付けます。特に学校の歴史がわかる「卒業アルバム」のご提供をお待ちしております。よろしく願います。詳細はホームページをご覧ください。

桜菜前号の記事(台風19号水害による資料水没)に心を痛め、手元にある資料等を提供して頂いた方をご紹介します。(寄贈・貸与を含む)

- ★川上 正 氏 昭和44年電気科1組卒 第16期生  
○16期卒業アルバム・卒業記念品(ネクタイピン)
- ★金澤 裕 氏 昭和50年普通科1組卒 第22期生  
○生徒手帳・襟章・制服金ボタン
- ★中野 克宏 氏 昭和61年普通科1組卒 第33期生  
○生徒会発行の新聞
- ★首藤 誠也 氏 昭和63年普通科3組卒 第35期生  
○第35期卒業アルバム



## 桜采編集部よりお知らせ

### ★学校に関する資料提供のおねがい

一昨年の台風19号により学校保存の多くの貴重な資料が水没してしまいました。そこで、みなさんのお手元にある日大東北高校(日大東北工業高校を含む)のアルバムや生徒会発行の「渦流」および「生徒会新聞」、帽子の校章や襟章(バッジ)、その他学校に関するすべてのものをお貸しいただければ幸いです。嚴重に保管し、データとして保存した後に返却いたします。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### ★次回の桜采20号(2022年発行予定)の原稿を募集します。

- ① 高校時代の思い出600～1000字程度。
- ② 現況報告は裏表紙の郵便はがきで「掲載希望」にチェックを入れ投函して下さい。

※詳しくは桜采編集部まで。

☎024-956-8852 (編集部)

## 編集後記

19号発行に際し、ご協力いただいたすべての方々に心よりお礼申し上げます。

例年夏のお盆前に発行してきた本会報誌は、今回コロナの影響により12月の発行となってしまいました。「会報誌どうなってる?うちまだ届いてないよ。野球で(甲子園出場のため)遅れると思っていたけど、さすがに11月末には来ると思っていたらもう12月なので、少し心配になって…(埼玉県川越市在住S氏)」などと、県内外はもとよりHPにも異口同音に問い合わせを頂きました。ご心配おかけし

ましたこととお詫びいたします。多くの同窓会員の皆様方より激励と慰労のお言葉をいただき事務局をはじめ編集部一同心より感謝申し上げます。

来年は記念すべき節目の20号発行となります。できるだけ多くの方々のお声を反映できる紙面にしていきたいと考えておりますので、会員皆様のより一層のご協力をよろしくお願いいたします。

一刻も早いコロナウィルスの終息を願い、2022年(令和4年寅年)が皆様にとってより明るい良い年となりますよう熱くお祈り申し上げます。(編集部・高橋 敏行)

## 《同窓会のHP(ホームページ)について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜采OUDA」1号～18号のバックナンバーもご覧いただけます。<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

### 郵便はがき

9 6 3 1 1 9 0

料金受取人払

郡山局承認

2433

郡山市田村町徳定字中河原 1

日本大学東北高等学校

同窓会 行

差出有効期限  
令和5年12月20日迄  
です。切手はらず  
にお出ください。



|     |                                               |     |      |  |
|-----|-----------------------------------------------|-----|------|--|
| 現住所 | 〒                                             |     | 都道府県 |  |
|     |                                               |     |      |  |
| TEL | 携帯                                            |     |      |  |
| 氏名  | 生年月日                                          | 男・女 |      |  |
| 卒業年 | ※いずれかに○をつけてください。<br>建設・機械・電気・工業化学<br>普通・土木・建築 |     |      |  |

## 【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等)同窓会会員名簿の作成。  
上記1の使用に当たっては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

### 2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

#### 法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

### 3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

### 4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシヤ会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

## お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会

郡山市田村町徳定字中河原 1

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



同窓会HP